研究区分	学部研究推進

研　究 テーマ	看護教育における初年度科学教育と専門教育の連携について －基礎健康科学演習を含めた初年度教育の充実と専門教育への橋渡しモデルカリキュラムの提案－				
研究組織	代　表　者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	太田　尚子
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	井上　健一郎
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	荒井　孝子
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	堀　芽久美
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	濱井　妙子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	三﨑　健太郎
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	ヘムストック　ウェンディ　リアン
	発　表　者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	井上　健一郎

講演題目

看護教育における専門教育との連携を目指した初年度科学教育の取り組みについて

研究の目的、成果及び今後の展望

医療の現場では、看護師にも病態の理解（科学的な思考能力）とより高度な情報分析能力が求められ、看護学部入学年度の科学教育（＝「基礎健康科学演習」）の充実は、その後の専門教育の発展において極めて重要な役割を果たす。しかし、平成26年度からの学生定員倍増により、自然科学的知識、思考力、分析力において学生間格差が広がり、平成30年度カリキュラムで「基礎健康科学演習」として時間数削減と編入生受講必修化に伴い、同演習における教育内容のシステム化、効率化が求められた。そこで今年度は、従来のテーマを簡潔化させた以下の内容で実施した。

(a) 自己の健康状態を評価するためのスパイロメーター、心電計、血液臨床検査を用いた実験
(b) 基礎的検査を習得するための自身の血液・尿を用いた分析（臨床検査）実験
(c) 臨床における「衛生」の科学的根拠を理解するための手指・鼻腔常在菌の分析実験
(d) 生体の解剖・生理の理解を強化するための生体標本の顕微鏡観察実験およびラットの解剖実験
(e) 環境（外界および体内）の酸塩基平衡を理解するための化学実験演習
(f) 自然放射線と医療現場で使用される放射線の種類とその防護方法の理解のための実験

これらの演習を通し、自然科学的知識を基礎とした医学の講義・演習の深い理解に加え、高校理科を十分習得していない学生の基礎学力向上にも一定の効果が得られた。また、学年の進行に伴って学ぶ専門看護学系科目の学習効果の向上や卒後の病態アセスメントに関する総合対応力会得につながることが期待された。一方、課題の実施のみで知識の習得につながらない学生も見られたため、反転学習を含めた改善も必要と考えられた。